

第8回 有田町立小中学校適正規模適正配置審議会

1. 【開会】

事務局：時間になりましたので始めたいと思います。開会の前ではございますけど、栗山教育長が入院をしております、治療のために本日も欠席しておりますので、ご了承をよろしく願いいたします。それでは、ただ今から第8回有田町立小中学校適正規模適正配置審議会を始めたいと思います。あいさつにつきましては、すみません、割愛させていただきます。

2. 【教育長挨拶】 省略

3. 【議事】

事務局：それでは早速、議事に入っていきたいと思います。議事の進行につきましては、中島会長様をお願いいたします。

中島会長：皆さんこんばんは。この審議会も、山をほぼ過ぎまして、今日まとめられれば最後になるかなと思っております。せっかく皆さん方とお近づきになりましたけど、これで終るとまた寂しい気も致しております。とにかく有田町の子ども達が元気になるような形で町の方も進んで頂ければなと思うところです。今、佐賀はインフルエンザが随分流行っております、学級閉鎖がぼちぼち出ているところです。卒業生が出る時期ではありますけれども、なかなか学校も大変な状況になっているみたいで、有田町も大丈夫かなと思っておりますけど。あまり流行らないように、手洗いうがいをしながら収まってくればなと思っております。それでは早速、議事の方に入っていきたいと思います。最初、審議会答申の案について、事務局から説明をお願いします。

事務局：皆さんこんばんは。答申書の案について説明をさせていただきます。前回の審議会の時から、頂いたご指摘を元に少し修正を加えておまして、大きく変わったところは2点です。1つ目が4ページ。「町立小中学校の現状と課題」というタイトルでしたけど、もう課題とかについて書いている部分もないということで、「現状」というタイトルに変わった上で、下のグラフを、社人研のデータを最新のものに差し替えまして、それに伴って上の方の説明文のところも、網掛けにしている部分は差し替えております。もう1つの大きい変更が11ページ。こちら、前回の審議の中で、複式学級関係の記載を表示するかしないかということで、「表記し

ない」ということで結論が出ましたので、こちらの記載を削除しております。それ以外のところについて、網掛けしているところがございますけど、こちらについては誤字とか脱字の訂正を入れております。審議会でのご意見、修正点を反映して今回、この形で皆様の方へお配りさせて頂いております。非常に短いんですけど、説明としては以上です。

中島会長：ありがとうございます。この答申の案についての疑問点がございましたらお出し頂ければと思います。どなたかございませんか。この審議会の大きなテーマとしては、9ページの、四角の枠で囲んであるとおりです。中学校の課題の解消ということで、「小規模化により教職員の配置や部活動などで実際に制約が出てきている。学校施設の老朽化が進んでいる。できるだけ早く改築を進める必要がある」ということで。その方向性として「2校ある中学校を1校に統合して新設するというのが望ましい」という。町村合併もあって、有田地区と西有田地区の融合ということもあいまってこういう方向が良いのではないかとということで、審議会の報告案とさせて頂いているところです。それから、小規模化かつ老朽化している小学校の課題ということで、小学校の方は「小規模でかつ老朽化が進んでいる学校がある。これらの学校について統合して新設することが望ましい」。子どもの数もどんどん減っていくという方向性なので、そうした方が良いのではないかと結論にまとめさせて頂いています。いずれにしても、子どもたちが増えるような施策を、町の方も考えていって、みんなが元気になるような方向ができればと思うところです。最近は色んなグルメとか、テレビで紹介があったりしていますが。有田町も、私が観た番組で、焼カレーとか陶山神社とか、今ちょうどポーセリンパークで河津桜が咲いているという紹介もあっていました。去年、一昨年だったか、私が見に行ったときはあまり咲いていませんでしたが。今年は、少しよそからの人が増えているみたいですね。そういう、町の中を見て回るような企画とかをしたり、スタンプラリーみたいなのを作ってみたり。そういうのを入れながら、町の中を見るように紹介をしていくといいのではないのでしょうか。それに加えて、よそから移り住んで頂けるような、人口自身が増えるような施策を。一番手っ取り早いのは企業誘致。熊本は、台湾の会社が来て随分にぎわっているようです。どなたか、何か出てこないですか。そういう話でも良いですけど。

委員A：この間から、郵便で、この適正配置について、修正された資料を郵便で頂いて、また電話も頂きました。相当改善というか、文章を書き換えて頂いて、これで十分ではないかと。審議に関しても、自分なりにこのメンバーで、いろんな意見が途中ありましたけど。いわゆる審議ということでいけば、会長はじめ十分回数を重ねたのではないかと。これを右の左の言っても、

いわゆる前向きに、やっぱり建築する、建築というか統合とか新設する方向で持っていくということですので。会議の内容は、こちらに書いてあるとおり、中学校2校統合、それから老朽化した小学校の新築とか、そこら辺の問題。もうこれに多くは向かっていいかと思いません。これは私の意見ですけど、特に大山小学校の子どもとか西地区の中学生と話をしてみると、有田小学校の建物を見て「私達も小学校か中学校に行っている間にああいう校舎で勉強したい」という声を聞くと、ちょっと私も涙腺が弱くなるというか、なんとかしてやりたいなと。この委員会が、そういう意味で結果的に予算が付くまで何年もかかるとは思いますけど。それを1年でも早く実現してあげて、本当良い学校を作ってあげて。西地区の方、特に、おじいちゃんおばあちゃんに「西有田中学校を残せないか」と言われている方いらっしゃいますけど、やはり全ての方の意見を聞いていると、それこそもう取り留めのないようなことになっていきますので。やはり2校合わせての統合、そういうところを考えていながら、できれば本当に建物を。特に西有田中学校を見ていると、やっぱり鉄筋で築60年というと、佐賀県下見回しても西有田中学校ぐらいのものではなからうかと思う部分がありまして。特に伊万里市辺りは本当新校舎に建て替わっていますので。いろいろ四の五の愚痴を言っても同じですけど、とにかくこの会は昨年度から続けてきて十分その役割を果たせたのではないかと、また学校教育課の方でも文書に関して十分やられたのではないかなという気持ちで、今日この場に立たせて頂きました。これから先はとにかく前に、建設に向かって、それこそここにいらっしゃる委員さん、それから町の担当者、何とか予算を付けてもらって、1日でも早く新校舎を建てて。本音を言うと、西地区の方に失礼ですけど、やっぱり新しい校舎と古い校舎と比べると古い校舎の子ども達が可哀そうという気持ちになってしまっただけ。この言葉がいけないということは、十分皆さんから聞いてわかっていますけど。やはり、同じ小学校1年生、同じ校舎というか、きれいな場所で勉強させてあげたい。そのためのこの適正規模配置審議会であったのではないかとこのことで。本当、皆さん、会長さん、毎月夜集まられて本当にお疲れさまでした。すみません、私の意見は取り留めないですけど、皆さんよくこの会に来られて頑張られたなということで、お礼の言葉と同時に、子どもたちの夢を叶えてほしいという言葉の代弁です。

中島会長：ありがとうございます。とにかく古い校舎をできるだけ早めに建て直すという方向性で、ただし、やはり他のところのないような立派な校舎を造って頂きたいと思えます。そうすると古い校舎がなくなって統合されても「なんかいいな、こんな立派な校舎に通えるようになったな」と保護者も子どもたちも思うだろうと思えますから。ぜひそれこそ他のところのない

ような立派な建物を、予算を必死に取って頂いて。これは、子どもたちにお金を使うというのはやっぱり投資ですから。子どもたちがすくすくと育てば、言い方悪いですけど、税金をしっかり納めて頂けるということですから、次の施策にもつながっていきますので、ぜひ子どもたちには投資をして頂きたいなと思います。他にございませんか。感想でも結構ですよ。

委員B：一点確認です。9ページの真ん中にある2つの黒丸。これはどちらが、9ページの真ん中の黒丸2つは、どちらも「解消」という結びになっていますけど「どちらが先」という順序性がありますか、教えてください。

中島会長：基本的には順番は設定してないと認識しています。だから極端にいうと「予算が付く方からできるだけ早く」ということになるのかなと。これは審議会の答申ですから「とにかくどっちも同時にでも、1日でも早くやってください」という気持ちで入っていると、そう思います。このあとは町の行政の方で、有田町の総合計画もあるでしょうからそういうのを受けながら、どちらが先にできるのかというところはあろうかと思えます。

委員B：ありがとうございました。

中島会長：いいですか、今日が最後になるかもしれませんよ。今のうちに言っておきたいという人はぜひ。自分の子どもたちに対する教育論でもいいです。お話頂ければと思います。

委員C：自分は保護者とかの立場ではなく参加したので、どうすればいいかわからなかったですけど。自分も有田小学校、有田中学校通ってきて、今、妹が有田中にいますけど、やはり勉強に集中するために、さっき仰ったように、新しい、できればきれいな校舎で勉強に集中するようなところがいいのかなと、やっていく中で思ったので。今回参加して、最初の方、トイレの話とかもありましたけど、できるだけ早く、きれいな校舎で勉強に集中して取り組む環境ができれば、子どもたちにとって一番いいのかなと思ってここまで参加してきました。

委員D：社人研といいましたか、新しい資料に変わった時に、結構500名以上、前回より少なくなっていたかなと確認しました。これだけ人が少なくなると元々聞いていた、それ以上に少なくなるというのが出ているのかと思ったので。実際、子どもたちの人数も、これよりもっと早く減るのかもしれないという印象もありますけど。そういった中での学校づくりになりますので。他の市町村でも「統合はしたけど、また再度統合」という話も、この前もこのデータに出ていると思うので。本当まちづくりの1つにもなるかなと思うので、その辺をこの答申を活かして、まちづくりと学校づくりの両方をして頂ければと思います。よろしくお願いします。

中島会長：有田町には新興住宅街というのはありますか。

まちづくり課長：現在大きな住宅地はありませんけど、小規模なものに関しては、民間の業者さんの方で開発されて、分譲されている分がございます。

中島会長：今、佐賀市内の方も、市内ばかりじゃなくて近くの小城・久保田辺りも、比較的小さい家が、どんどん新しく建っています。ある人の意見では「今の人は同居しないから、若い人たちが新しい家を造って住むようになったから増えているのではないかと。どんどんそうやって家が増えていくというのも、農地がなくなるという反面もありますけど、町自身が元気が出る場所につながっていくのかなと思います。だから、そういう住宅地を造ると他の近隣からも、例えば佐世保から、ベッドタウンとして家を求める。今佐賀市は、福岡に通う人達に補助金を出している。マンションとか家を佐賀市内に造ってもらって、そこから福岡に通ってもらうという施策をとっているみたいですけど、そういうのもちょっと街中が賑わうということになるでしょうから。それから、少し話は違いますが、実はゆめタウンさがには福岡から結構お客さんが来るそうです。なぜかという、洋服のブランド。佐賀のゆめタウンにしかないブランドがあるそうで、それでわざわざ福岡から買いに来るということもあるようです。だからそういうのとか、さっきの食べさせるところとかでもあるでしょうし。そういう「有田のお店にしかない」というのがあるのも面白いのかなと。それから、古着も結構若い人たちに人気ですから、古着とか着物の布地を売っているお店、そういうのも面白いかなと。そんな、いろんなことを考えていくと新しい、何か「しないと町が元気になる」ではなくて「あるものを上手く活かしたら町中が元気になる」というものもあるかなと思います。今、佐賀のひなまつりというのがあっていますが、あれも家にあった飾り段を集めて、それを町中に飾って見せるというものです。それから大和は、家で使わなくなった鯉のぼりを、あそこに寄付してもらって川上で泳がせています。それを川面から鯉のぼりを見られるようにその時期だけ船を出して。そういうのもいいのではないかと。そういう、何か工夫をすれば人が集まって来たり、にぎやかになったり、子ども達が喜ぶようなものもできるのかなと思っていますので、皆様方も思いつくままに町の方にお話し頂いて。ぜひ元気ができるように進めていかれるといいのではないかなと。

委員E：失礼します。答申の10ページ第4章「新しい学校づくりにおいて配慮すべき事項」の2番に「魅力ある学校づくり」という項目を挙げてありますけど。先程「教育というのは未来への投資だ」という言葉がありましたけど。ただ、学校を造るとなると莫大な予算がかかるわけで、一度建てたらまた建て直すなんて簡単に言えるものではありませんので、50年60年とか、

西有田中はもう60年以上ですね、かなり長い期間経っていますけど。魅力ある学校づくりをしていく上で、ソフト面はいつでもまた取り組むことはできるかもしれませんが、ハード面で、統合した学校を新たに造る時に、しっかりとしたプランを持ってやっていかなければいけないと思いますので、ここで皆様方のいろんなアイデアを出して頂けたらなと思っております。丸の4つ目に「住民が集い、連携協働する活動や交流の拠点として地域に開かれた学校づくりをさらに推進する」とありますけど。交流の拠点となる学校づくりといったときに、ハード面でどんな工夫があったらそれが達成しやすくなるのか。例えば、今伊万里市では、伊万里中学校の建設がほぼ終わりかけて、今度は東山代小学校が造られようとしていますけど、そこでは「コミュニティセンターを学校と一緒に、一体化させて造る」という計画だと聞いております。そういうのも1つの「人が集う」という、拠点にするためのハード面の工夫ではないかと思えます。とにかく「よそにないような魅力のある有田の学校」ということで。「ICTが使いやすいような教室配置」とか、そういうのはもちろんあるとして、今までよりプラスアルファの「魅力ある学校」とはどういうものかという、子どもたちの未来を語れるような、そういうアイデアを、今委員さん方で思っているものを自由に出して頂いて「魅力ある学校づくり」の1つの参考意見にさせていただくと。町の方からも来ておられますので、ぜひ皆様方のアイデアを自由に出して頂けたら、この答申に肉付けとなる意見として、ぜひ大切にしたいと思えますがいかがでしょうか。

中島会長：何かございませんか。

委員A：この間、中学校にお邪魔した時に、中学校の校長先生が、「空いた教室を使って、老人会とかいろんな会のコミュニティスクールを、生徒との交流とか挨拶とか、いろんなものができるのではなからうか」と話しておられましたけど。先生のお話を聞いていて私が思ったのは、「コミュニティスクール」という言葉を有田町内でも呼びかけてもなかなか浸透しないというか。私が思いつくのは各老人会がそこを利用すれば、特にお年寄りに対して子ども達がよく挨拶するのではなからうかと。私は今民生委員をしておりますけど、民生委員も旧東地区と西地区でそれぞれ2つに分かれておりますので、それぞれ分科会を毎月していますけど。3ヶ月に1回ぐらい、各地区の小学校の空き教室を利用して民生委員会の分科会を行うと、そこで授業参観がてらそういう触れ合いができるのではなからうかということで、民生委員の場合は健康福祉課の民生委員の事務局担当になると思いますが、そこら辺を学校教育課と話し合いをして。具体的に「こうすればこういう利用が生まれるのではないか」という話し合いを。私

達も朝から見守り隊活動をしておりますけど、やはり触れ合うことで子どもたちも声掛けてくるようになる。最初「挨拶をしない子どもが多い」と言われていましたけど、段々そういう子が増えてきて、去年の1年間でもものすごく感激するような言葉をもらいましたし、毎日子どもたちから声を掛けられて、本当にものすごいエネルギーを貰っています。子どもは本当に宝だと思いますので、その宝物のために我々ができるような協力を。まずこの話し合いの場に参加して意見を言って、実行するために何をすればいいのかという感じで、子どもたちとの触れ合いがちょっとでも増えていけばいいかなということですけど。コミュニティスクールの枠組みを書いてありますけど、やっぱり有田町の歴史とか。子ども達に言うのが「佐賀牛と言われるけど、その前ははがくれ牛、その前は伊万里牛でしたよ」と。「元々は大山地区の畜産農家が始めた肉が佐賀牛の、伊万里牛のスタートだよ」という話をしたら、皆さん「えーっ」と驚かされて。そしてキンカンも同じように、「これほど糖度が高いキンカンは日本全国探しても西有田のものが一番」と伝えるとそこでも「へえ」と。お互いにいろんな地区のこと、子どもたちにそういう情報も教えていく。大山小学校6年生が有田の磁石場に行ったらものすごく感激したという話を聞きましたけど、今度は有田地区の子どもたちが西地区に行って、西地区のいろんな農産物とか、そういうところを学習するというか、農業経験者とか皆さんが伝えていくのも大事なことじゃないかな、それを忘れていないかなと思っています。あと私は最近子どもたちにできるだけ有田弁を使ってほしいと。私は文化の一番は言葉だと思っていますけど、失われた文化の中で特に有田弁を残したいということで。この間も、佐賀大学の生徒さんが観光案内のためのビデオを、標準語で入れておられたのを、「即興で有田弁に直してください」と持ち込まれて。2つのビデオを有田弁に、本当の即興で直しましたが、あの方たちがそういう活動をしてくれるだけでおじちゃん嬉しいと。本当に単純な例ですけど、そういうことが将来的な有田に何らかのプラスになるのではないかと。動かないと話にならない。特に企業誘致を、難しい話だと思いますけど、伊万里のように目に見える形でできれば有田町にとって最高なことですけど、何か具体的に。個人的に思っていたのが、佐世保の水利問題。川棚の石木ダムがどうこうと言われますけど。本当笑い話ぐらいで申し上げますけど、もしできるなら、古木場ダムが今有効活用されていないのなら、佐世保に送水して、その代わり佐世保から見返り条件として、前原とかにある工業団地に、佐世保の方から鉄鋼業関係の企業誘致を向こうの市長の方に提案してみたらどうかとか。または松浦鉄道の完全円周化。佐世保から有田までを松浦鉄道で行っても3,600円も運賃がかからずに、1,000円弱ぐらいで回って有効に使

えるような、いわゆる大西九州構想というか。そういうものをもっていったら、何か活性化すれば変わってくるのではないかと。佐世保は24万近く人口がありますので、そのうちの1万人でもいいからこちらに。私もタウンQの時には、有田の特に水の問題、環境問題のことをだいたひ話して「有田町役場から、引っ越しすると補助金も出るよ」ということで、アピールしましたけど、そういうことができるかもやっぱり大事な部分があるのではないかと。ぜひ町長さん、議員さんにも、役場の皆さんにも頑張ってほしいし、それ以上に民間人である我々も頑張って何かPRしていかないと、黙っていても何も発展しないので。今の有田焼と全く同じ。出張も出ないようにして黙っていても何の発展性もない。やっぱり動くことによって何らかのプラスはあるわけなので。このままいけば、私は、有田焼が完全に衰退してしまうかなと。次に来るのは有田の完全な観光化かなと思ってしまっていますけど。焼き物も失くしてはいけないというのは、大事な一番の東地区の目玉ですよ。しかし西地区は本当に農作物でものすごいものがあるし、歴史からいけば東地区よりも、縄文時代とか弥生時代から、とにかくその時代から歴史があるのが西地区だと私は思っていますので。松浦さんの話とかおさいさんの話とか、そういう物語、黒髪山の大蛇の話も、その後あの大蛇は竜門ダムに落ちて白竜になったとか、そういういろんな話もありますけども。本当子ども達にはそういう昔ばなしや紙芝居も大事じゃないかなということ、役に立てば。何か子どもに伝えていかないといけない、言葉だけでなく、行動で。本当、皆さん、もしチャンスがあれば、1年に1回でも2回でもいいから、朝の見守りに立ってもらって、声をかけてもらえば、子どもたちの反応がものすごく素晴らしいものがありますので、ぜひ見守り隊の一員としてよろしく願いますということで、最後の言葉に代えさせていただきます。

委員B：今言われたことも大事だと思います。それに加えて、10年後、本当に有田の子どもたちが自分の生業とか、能力で、自分たちで自分の生活を作っていく、10年後自分で飯が食える、本当にたくましい子ども達。そういうふうにするためには、もっと我々大人が10年後の、子ども達が大人になった時の社会はどうなっているかをちょっと考えて、想像しなければいけないのではないかなと。今あるものを大事にすることも勿論ですけども。例えば有田町は、同じこの町の中に保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学まであります。こういう強みをもっと活かして、もちろん焼き物は大事ですけど、デザインとかインターネット、プログラミングとか、子どもたちの10年後の社会や生活がどうなっているかを私達は想像して、それに近づくようなもっと大胆なことをしないと、なかなか、何とか頼みでは変わらないと思います。だから

小学校も、例えば大学ありますね、佐大の先生とか学生さんと交流するとか、有田工業の人たちといろんな面で交流するとか、もっと自分たちの枠を超えて、広く何か子どもたちのためになることを探っていかないと、今のままでは何も変わらないし。子どもたちが「有田で学校を巣立ってよかった」と思うようになるには、もっと広い視野と、やっぱり10年後の社会はどうなっているか、その時に子ども達が本当に「有田に育ってよかった」と思うかどうか。そこをもっとクリエイティブにやるのが有田町の生き残りというか、学校の生き残りでもあるし、子ども達が本当に「ここで育ってよかった」と思えるのではないかと思って話を聞いていました。

中島会長：さっきの施設関係は他の市町村で、例えば小学校と児童館とか、保育園、それから町の体育館、そういうのを一緒に作ってあるようなところもあります。考え方としては「学校は学校」じゃなくて「総合施設」という発想で考えてもいいのではないかと。先ほど「人が集まる」と仰いましたけど、そういう場づくりにしていく、図書館なんかもいいでしょうし。そうすると町民も子どもたちを見守ることができるし、子どもたちは大人にも接することができるでしょうし、そういうのもある。先ほどの仕事が、これがなかなか我々では想像ができないような方向になりそうで。今ある仕事が、どれだけ子どもたちが活かせる、就けるような仕事が残るのかというのも、なかなか多くの人たちが一緒になって考えていかないと難しいのかなと思います。だけど子ども達はいろんな可能性がありますので、いろんなところにアンテナを張って、自分たちなりに考えているようですから、ぜひ子ども達がどういう思いを持っているかというのを受け取る場所、あるいは先生たちもそうですけど、そういう場所を作っていくのも1つ手なのかなと思います。簡単にいかないですけど、例えばeスポーツというのが今、一昔前だったらただゲームをしているだけという話ですけど、それがスポーツとして成り立つようになっています。団体戦ですから、例えば有田町でeスポーツをやらせようと思っても、かなりの予算がかかりますので簡単にいかない。それこそ学校1つ造るぐらいの予算をかけないと、そういう施設を造らないといけないですから、簡単にはいかないですけど、こういうのが出てくる世の中になっていますので。一昔前だったら「ゲームばかりしないで、勉強もしなさい」と言っていたことが、今は実際、それをやって稼げる時代になっていますので。なかなか我々も、今考えても分からないというところがあるので、非常に難しい。やっぱり一番は「人と繋がれる人をつくる」というのが大事でしょうし、だからと言って、1人でできる仕事もありますので、非常にその辺は難しいですね。

委員D：子ども達見ていて、先生の働き方改革もあるかもしれないですけど、できるだけ学校にいる時間を少なくするというか。学校が終わったらすぐ帰るとか、休みの日に行っていいのかどうかというところもあるかと思います。もしかしたら用がないと学校に行けないような感じになる可能性もあるので。例えば今、有田の本庁にホールがありますけど、あれって、よほど用事がないと、大人が行っても子どもは行かないと思うので。できるだけ、学校の一部を町の方が使える機能にするというか。子どもたちがいつでも、学校というか学校の横の町の施設になるかと思いますが、学校だとやはり先生の働き方とか先生の関わりというのが必要になってくるので、そうならないような感じで、子ども達がいつでもそこに行けるような形にしてあげた方がいいかと思います。ただホールがあっても、やっぱり用事がないとなかなか行かないというのであれば子どもたちが結局は集まらなくなるので、夏休みとかの時でもいつでも行ける、そこに町の誰かが見守りを、見守るというかただ利用しているぐらいの感じでして頂けたら、子どもたちが通いやすくなるというか。学校プラスですね。そういった施設が横にあれば、親としても安心ができるのかなと思います。以上です。

委員F：さっきちょっと言われましたけど「有田焼が廃れていくのではないかと」と。私も同じ意見です。つい先日、県立高校の倍率が出ましたけど。有田セラミック見ました？ 0.8でしたか？ 5割を切っています。たぶん子ども達にとって焼き物に興味がないというか、そういうことかなと思って、もし有田焼を残したいと思うなら、もっと子ども達に。有田小学校では焼き物を作りますけど、中学校ではしてないですよ。作品持って帰ってきたことないですよ。していますか？ もう少し、焼き物を残したいと思うなら、もっと子ども達にもそういうのを広められるようなことをして頂けたらいいかなと思いました。

委員E：有田中は陶芸教室あるけど。西有田中はそれがないので。西有田中はやっていない。

委員A：いろんな窯元さんが来られていて、私が見に行ったときは、梶原さんが陶芸教室で授業をしていた。

委員F：有田焼というのは、もっと子ども達にも知ってもらえたらというか。すごく良いものだと思います。有田焼ってちょっと高級なイメージもありますけど、そういうのをもっと子ども達にも知ってもらえたらなど、それは思いました。

中島会長：今、子どもたちの授業でどういうやり方をされているか分かりませんが、イメージが、ろくろで作らないといけないようなイメージなので。子ども達が、例えば型抜きをすとか、陶板を作ってから少し形を変えて焼いてみるとか、そういうのがあると、もうちょっと子ども

ウケというか、あるのではないかと。なんかこう焼き物というと、ろくろをいじって、壺を作
って茶碗を作ってみたいなイメージが強いのではないかなと。型抜きしたり、陶板を変形させ
てなんか作ってみたりとか、あるいは今流行りの、鶴を折って焼くとか折り紙を作ってそれを
焼いてみるとかいうことをやると、子どもたちももうちょっと興味が湧くのかなと。「こんな
のも焼き物でできるのか」と。何か、焼き物というと「昔の人がやる」みたいなイメージにな
っているのではないかなと。そういうところをすると、今度はまた外国の人達も興味を持って
くるだろうし、そうすると子どもたちも視点が海外とか、何かやれそうな気がしますけど。廃
れさせない。さて、時間が1時間程度になってきましたので、最後、あと一言でも言っておき
たいという人。

委員G：あまり出席していなかった所以说ってなかったですけど、私が一番苦手とするインターネ
ットとか英語とか。私はできないですけど、子どもたちは、有田の小学校・中学校を卒業した
らそれが絶対できる、英語が喋れるようになると。例えばですけど、そうなれば、よそから移
住してくるのかなと。そのぐらいやって。夢ですけど、そういうのがあればいいと思います。

中島会長：他にありませんか。もういいですか。締めますよ。

委員H：G委員さんから夢という言葉が出ましたけど、この答申を見て、この方向で進んでいくこ
とが良いか悪いか、やってみないと分からないと思うのであれですけど。夢とか希望みたいな
のは、この答申には多分盛り込めていないと思います。なので、例えば中学生とか高校生がこの
資料を目にしたときに「この町にいてもどうにもならないかも」と思ったりすることがあるか
もしれないなと思って。ハッキリでもいいというのであれですけど、もう少し、やっぱり「この
町に帰ってきたら良いことがある」とか、生活ができるとか、安心して暮らせるとか、そうい
うところを。学校づくりの話、今日ここ学校づくりの話ですが、最後にまちづくりみたいな話
になったのは、多分、やっぱり繋がっているからだと思います。だからそういう、子どもたち
に小さい頃から、この町の魅力とか、まだ埋もれている表に出てない部分とかを伝えていく作
業と、あと、いろんな民間の会社とか抱えている課題を学生たちも一緒になって解決するよう
なワークとか、何かそういう実践的な学びができる場所を作るとか。なんかそうやって、一旦
は外に出てもまたこの町に戻ってこようと思えるような町に、10年後、20年後というか、何か
そういうのを目指してまちづくりとかをやっていって頂きたいなと思いました。そういう、も
うちょっと明るい町というか、もう少し元気のある感じの町になってほしいなと思います。こ
の資料だけだとちょっと、結構、絶望すると思いました。

委員 I : 私は聞く立場で参加しますと最初から言っていますが、今日この答申を見せてもらって、第 3 章の 9 ページですけど、下の方に「今後の学校施設の再編を具体的に進めていくにあたっては」ということで、有田町として、「子どもたちが夢と誇りをもって有田町で生活できるようにするために学校はどうあるべきか」そして、飛んで「町立学校としての基本的な教育方針を明らかにした上で」一番下段になりますけど「特色ある施設や教育内容についても十分検討してください」と。数学に特化した学校、クラスを持っているところもあります。穂波町といいましたかね。英語に特化した学級を持つ学校もあります。これも穂波町です。そういったところも参考にしながら、さっき G 委員さんが仰ったように、英語とか数学、こういうところは大事ですので、そういったところを特色ある学校として私は捉えますけど、教育内容の拡充、そういったところについても「十分に検討してください」ということですので。私は広く捉えて、皆さん方のご意見を議会としても賜りながら、今後執行部からこの答申を受けて返答があるわけですが、その時にはしっかりそこも議論していく場で言っていきたいと思っています。よろしくお祈りします。お気づきがあったら、そちらの学校教育課長に是非言ってください。

中島会長 : そしたらこれを機会に、近所の方、あるいは自分の子ども、あるいは関係のある子ども達、そういう人たちにも「こうやって議論をしたよ」と。「検討を、『再編する』という話をしたわけではなくて、みんなの、有田町の将来について議論してみましたよ」ということを伝えて頂ければと思います。そうすると、先ほどの話ではないですけど、夢のある話に繋がっていくのではないかと思いますので、よろしくお祈りします。

委員 J : 突拍子もない質問ですけど。実際に有田、特に西有田ですけど、今いろんな、将来に向けて町を発展させるために企業に来て頂くとか人口を増やすということの中で、実際に住もうと思った時に、宅地は十分にありますか。実際に家を建てていい場所というか。というのが、例えば今、曲川小学校、黒川ですけど。あそこはもしかして、小学校が近いからあの辺に引っ越してこようという方達も居たのかなと。そうなった時に、例えば「中学校合併して消防署の近くに建てます」ってなった時、その近くに家が建てられるのかとか、そういったところを踏まえて。今結構、農家さん達も、もうほとんど畑とか田んぼを作っていない方が増えてきていますが、「中山間に入っているから宅地に変えられない」「何年か先まで無理です」というところが、西有田の方は結構多いです。僕の仲間も、実際に家を建てる時に、農地から変更するのに 3、4 年かかったとか、やっぱりそういったところがあるので。いざ建てるという時にすぐに宅地にできるのかというところが、そういった問題というのはどうですか。ちょっと僕が、全

くそういうのはわからないので。

まちづくり課長：お答えになるかどうかわかりませんが、現実的に言いますと、確かに農地を宅地に利用するのはなかなかハードルが高くて「田んぼとか作ってないからすぐ宅地になるだろう」というのは大きな間違いで、簡単にはならないというのが現実です。ではどこを拓くかとなると山とかになりますけど、そうすると造成費にお金がかかりすぎて、実際の宅地単価としては高く額面が出てしまうので売れないという形になりますので。実際問題、現在、新しい家が建っているところは、大体、元々家が建っていたところを壊して建てるか、元々工場があったところの工場がなくなってそこが宅地化されるという形がほとんどだと思います。曲川地区はまだ宅地化しているところがあります。特に大山地区に関しては、ほとんど宅地になるような土地がないというのが現状なので。今の問題でいくと、大山地区に新たな住宅地というのは、なかなか難しいと思っています。そこで、まだこの辺りはあまり大っぴらには言えないですけど、来年度の当初予算に、議会の承認を得ていないのでここで言うのもいかなものかと思いますが、そういった形で大規模な宅地を開発した時には、それに見合うような補助金を出す仕組みを来年度に向けて構築しようとしておりますので、その最初の適地として大山地区を候補に挙げて進めていこうかと考えています。少子化の問題も、結構、今回、社人研の方で衝撃的な数字が出ていまして、今回の資料に反映されていますけど。かなり今後、10年、20年先に人口減少していくということは目に見えて分かっております。現在、有田町の子ども出生数が、特に昨年度は90人を切りました、そういう状況です。ほんの10年ぐらい前まで150人とか200人近くいましたけど、今は80人台になっているという状況ですので、このままいくと非常に危うい状況になるかと思っています。今、有田町としても、例えば定住奨励金といった形で、よそから家を建てられた場合には奨励金を交付したりとか、空家を購入された場合には補助を出したりとか、あとは結婚新生活応援金として、結婚されて婚姻生活する場合には補助とか、施策はしていますけど、そもそも結婚する人が少なくなっている状況があるので、その辺りをどうにかしなければいけないと思っていますが、なかなかそこに手を打てない状況になってきます。以上です。

委員J：ありがとうございます。今の話を聞くだけでも、未来をというところで、やっぱり大きく夢を大きく持とうと思ったら、そういう宅地に変えて頂くとか、そういったところから。企業を呼んで、その企業に働く人たちが生活の場を有田に移すとか、そういうところでやっぱり子どもたちも増えていくと思いますので、これは町として頑張って頂きたいと思いました。

まちづくり課長：先ほどから企業誘致の問題出ていますけど、今、企業誘致がどういう状況になっているかと言いますと、働き手がないという状況です。実は。なので、逆に地方に行っても働き手がないので来ないというのが現状です。どちらかという働き手と雇用のミスマッチが生まれてしまっていて。地元の子どもたちが実際就きたい仕事の企業がないというのが現状です。必ずしも企業を呼べばそこに子どもたちが働きに行くかという、なかなかそうはなっていないというのがありますので、その辺りも複雑で難しい問題になっています。

中島会長：今度学校が合併をして新設をするということで、その周辺に宅地が建てられるような状況を考えて総合計画を作って頂くといいのではないかと思います。だから、学校に行きやすいところに家が造れるという形を作って頂くといいかと。大体、学校ができるとその周りにどんどん宅地が増えますので。そして、宅地が増えると「学校の子どもたちがうるさい」と逆に文句を言う。元々学校があったところに後で住んで、宅地を造って住まれているにもかかわらず、子どもたちがうるさいというふうに言われるところもあるので。私は校長をしていた時に周辺に必ず「いつも迷惑かけています、うるさくないですか」と声をかけると「そんなことありませんよ」と、一応言ってくれましたけど。だからそういうふうに、学校というところを拠点にして人が集まってくるので、ぜひそういうところも考えた総合計画を作って頂ければと思っています。よろしいですか。最後、ちょっと暗くなるような話になりましたけど、そうでもないのではないかと私は思っています。ぜひ皆さん方の力で、有田町の今後の未来をつくって頂ければ。それでは、答申の形はこれでいきたいと思います。あと読み込んで微調整があれば私の方で最終的に確認をしていきたいと思っています。よろしいですか、お任せ頂いて。それではその他の方にいきたいと思っています。

4. 【その他】

事務局：今日で第8回目の審議会でした。1回目から8回目まで、いろんなご審議、ご意見等お話し頂きまして、誠にありがとうございます。答申後のお話を少しさせて頂きたいと思いますが、今回は教育に限った審議会という形になりました。総合計画の話も出ておりますけど、町全体では総合的なところで動いておりますので、そういったところも勘案しながら、これまでの審議会が出た多くの意見を、この答申を尊重しながら、今後は役場内での進め方が中心になるかと思いますが、より具体的な計画等に入っていくのかなと思います。すみません、こういった形で今後は進めていきたいと思っております。まだ進め方、確たる形はできておりま

せんけど、そういった形で進めていきたいと思います。それで、最後のスケジュールのお話をさせて頂きたいと思います。先ほど、中島会長様の方からお話がありましたけど、答申につきましては、ここに「第9回」とは書いておりますけど、答申は答申だけでさせて頂きたいと思っております。ちょっと別日に、3月になるかと思っておりますけど、会長さん副会長さんぐらいで出席をして頂いて、教育委員会への答申を、日を改めましてさせて頂きたいと思います。つきましては、この審議会については、第1回から第8回まで。そして3月に答申という形で、この審議会を終了させて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。私の方からは以上です。

中島会長：ありがとうございました。それでは皆様方、どうもありがとうございました。お疲れさまでした。また機会があったら、よろしくお願ひします。

5. 【閉会】

事務局：それでは、これまで第8回の審議会ご出席して頂きましてありがとうございました。それではこれを持ちまして、第8回目の有田町立小中学校適正規模適正配置審議会を終了させて頂きたいと思ひます。これまでどうもありがとうございました。

【終了】